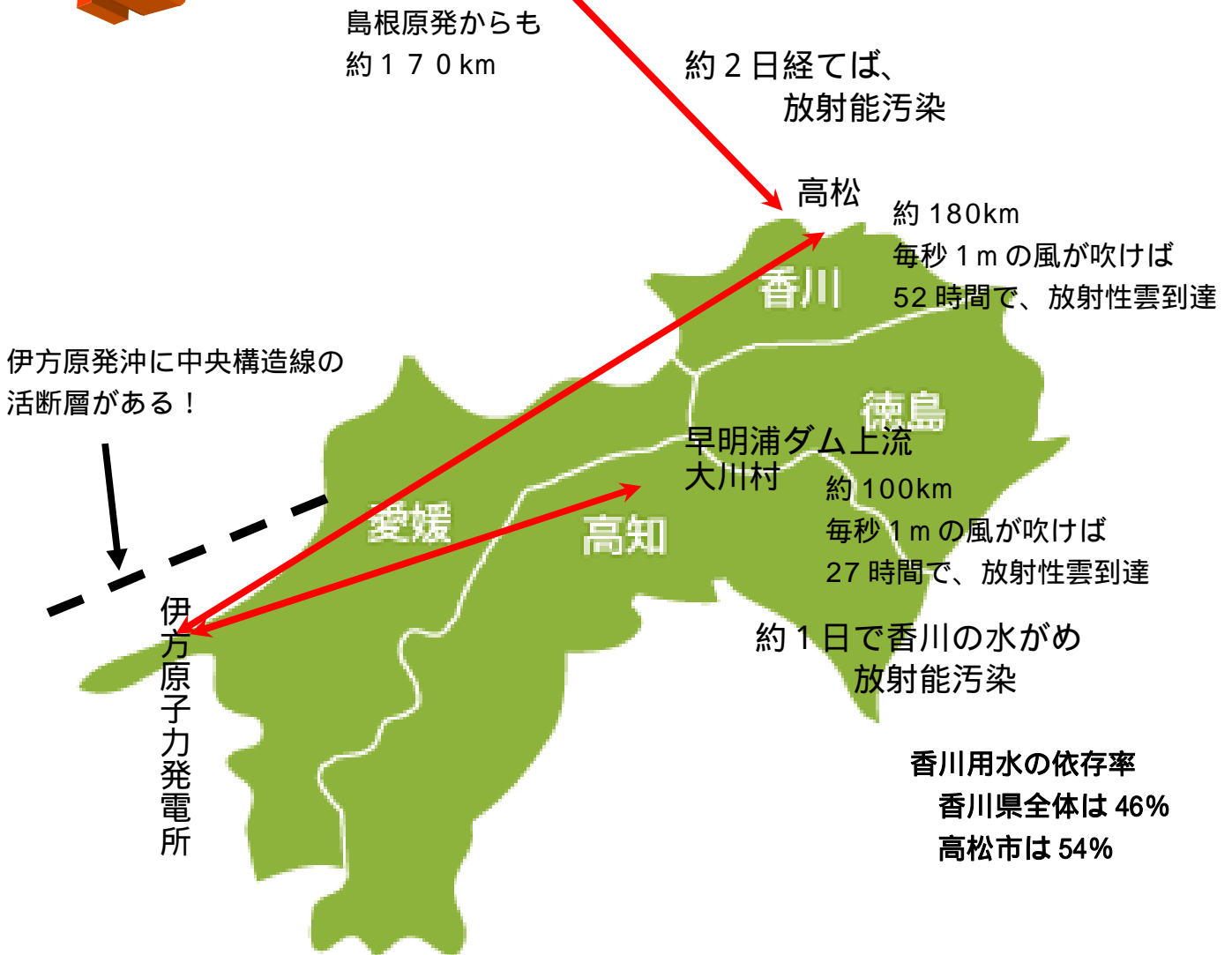


他人事ではない！ 原発事故



高松までは、【四国電力 伊方原子力発電所】から 180 km の距離があると言われてい
ますが、ご存知のように、お天気は西からくずれてきます。偏西風により、風速毎
秒 1m/s (時速 3.6 キロ)で、【放射性雲は】約 52 時間で高松に到達します。

また、香川の水がめと言われている早明浦ダムまでは、100km の距離ですので【放射
性雲は】約 1 日で到達します。もっと、風が強く吹けば、あっという間に、高松・早明浦
ダムは汚染をされてしまいます。また、島根原発からも、約 170km しか離れていません。

中国から飛んでくる黄砂の状況を考えれば、伊方や島根原発に事故が起きれば、他人事
ではありません。

(福島原発は、東側が海のため、まだ陸上部の汚染拡大が抑えられています。)

子や孫の将来世代のために

原発に依存しない社会を！

伊方原子力発電所の2つの原子炉の老朽化

- ・ 1号機は、35年が経過（1977年発電開始）
- ・ 2号機は、31年が経過（1981年発電開始）

この二つは、すでに、老朽化しており、実質的な耐用年数

（30年と言われている：減価償却は16年）を超えています。

- ・ 3号機は、18年が経過（1994年発電開始）プルサーマル発電

3号機は、18年経過ですが、プルサーマル発電であり、危険なプルトニウムを使っています。プルトニウムは、地球上でもっとも毒性の強い物質であることと、核兵器の材料であることです。

瀬戸内沿岸は、津波より怖い地震による揺れ

伊方原子力発電所の老朽化した原子炉は、直下型地震が起きれば、大変高い危険性をはらんでいるといえます。

伊方原子力発電所の沖合には、中央構造線活断層があります。

東南海、南海地震が起きれば、この活断層による揺れが相当大きいと想定されます。

今回の福島原発事故も、当初は、「想定外の津波による電源喪失が事故の原因」とされていましたが、実は地震による原発機器破損が原因であるという事実です。

地震による原子炉事態の破損であれば、津波の心配がないと言われている瀬戸内沿岸も他人事ではありえません。

ノーモア・フクシマ



福島原発事故で放出された放射能

広島型原爆の28個分

セシウム137は、広島の168倍

しかし、いまなお、放出されている

原発をなくしたらエネルギーの確保ができないから、経済活動に影響が出るという人たちがいます。（現実には、原発がなくても、供給可能：再生可能エネルギー＋火力）

しかし、一旦、原発事故が起きたら、経済活動にとどまらず、地域社会の人々が暮らしていけなくなることを考えて発言しているのでしょうか。（再生可能エネルギーこそ、新成長産業）

経済は誰のためにあるのか。人がいてこそ、経済ではないのか。